

令和5年度 第二中学校区地域包括支援センター事業実施計画書

資料4-2

	実施方針	目標	具体的な取り組み	
必須項目	高齢者を地域で支える体制づくり	高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう地域資源を整えていく。	しまトレ連絡会の活用方法を考える	令和4年度にしまトレ連絡会を立ち上げたが、うまく機能していないため、どのように活用していくことが望ましいのか再度検討をする。
			大草住宅出張相談会の実施の仕方を再検討する	年4回の開催 4月：顔合わせ・今年度の活動内容を検討する 7月：相談＋講話 10月：相談＋講話 令和6年3月：相談＋講話＋来年度に向けて
			徘徊高齢者の探索についての体制作りを考える	元島田地区での徘徊高齢者の探索の振り返りを行い、どのように探索活動をしたら、素早い対応に繋がり、早期発見に努められるのか考えていく。（自治会、民生委員、治癒自主防災組織、民生委員、行政、包括）
必須項目	認知症施策の推進	認知症の理解を促進し、誰もが安心して暮らすことのできる町づくりを整備していきます。	チームオレンジ「きずな」の活動の見直しの実施。	キャラバンメイト連絡会を年2回開催予定。 ①顔合わせ及び現状報告（キャラバンメイト及びチームオレンジ「きずな」） ②チームオレンジ「きずな」を今後どのように活用していくかの検討。
			認知症を正しく理解してもらうために、教育機関や企業、福祉事業所などに働きかけ、認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年4回実施する。	第二中学校区の教育機関や企業、福祉事業所などに講座案内を配布するとともに、認知症サポーター養成講座を年4回実施する。
選択項目	多職種、多機関とのネットワーク構築	共生社会を目指すために、多職種、多機関との顔の見える関係づくりを強化する	専門職による情報共有や連携向上を目的とした勉強会をオンラインを使い定期的に開催する	多職種地域連携会議を毎月1回オンラインで開催する。（薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、保健師、主任ケアマネ、ケアマネ、社会福祉士など）
	センターの認知度を高めるための周知活動	身近な相談窓口として認知してもらえよう、積極的に地域に出向き周知していく	第二中学校区地域包括支援センター独自の広報誌を作成し、地域の病院、薬局、商店などに掲示したり、講和で配布することでセンターの周知を図っていく。	広報誌の年4回の発行 第二中学校区美術部に周知の為のポスターを作成してもらう
	介護支援専門員に対する連携づくりと実践力向上支援	地区におけるケアマネと連携強化を図り、質の高いケアマネシメントが提供できるようになる	顔の見える関係づくりを強化し、地区の介護支援専門員に対し、情報発信や、適切なケアマネシメントができるように支援をする。気軽に相談できる窓口となる。	年3回の連絡会の開催。 ①今年度の島田市の総合事業についてや市の高齢者背策の変更点の情報共有とケアカフェ ②訪問看護との合同研修会 ③成年後見制度について知ろう